

松江市美保関重要伝統的建造物群保存地区選定(国・文化審議会の答申)

令和8年5月22日に国の文化審議会が開催され、松江市美保関伝統的建造物群保存地区が国の重要伝統的建造物群保存地区に選定される運びとなりました。

全国では130番目、島根県内では、大田市大森銀山(S62年選定)、大田市温泉津(H16年選定)、津和野町津和野(H25年選定)に次いで4番目、松江市では初めての選定となります。

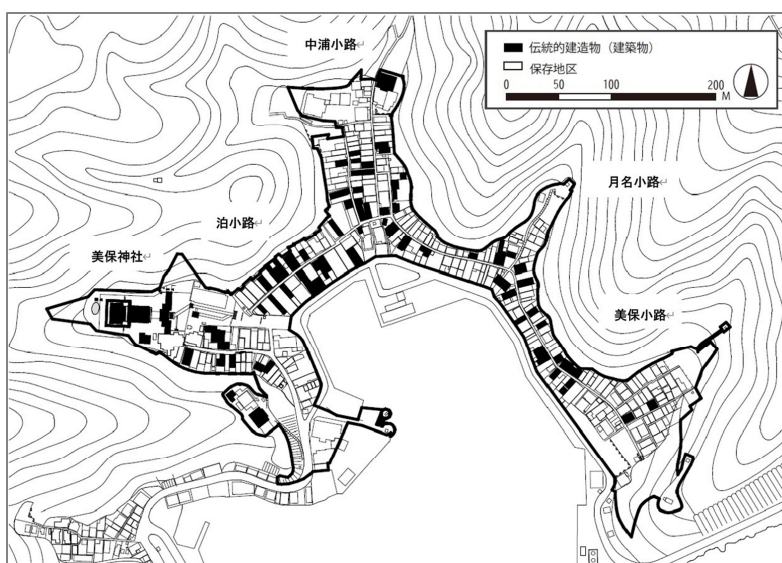
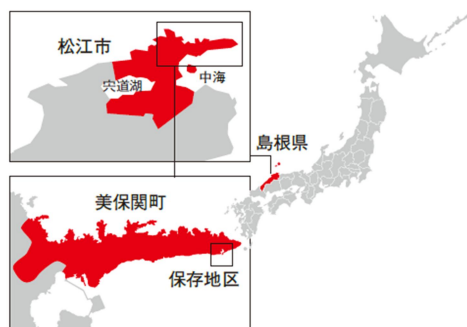
北前船の風待ちの寄港地、美保神社の門前町として発展してきたことを示す伝統的建造物が多く残り、また、江戸時代の地割が良く残っている点が高く評価されました。



松江市美保関伝統的建造物群保存地区

1 松江市美保関伝統的建造物群保存地区の概要

- (1)名 称 松江市美保関伝統的建造物群保存地区
- (2)所在地 松江市美保関町美保関の一部(範囲図のとおり)
- (3)面 積 約5.9ヘクタール
- (4)種 別 門前町・港町
- (5)選定基準 (二)伝統的建造物群及び地割がよく旧態を保持しているもの
- (6)位置図、範囲図



- (7)伝統的建造物数 建築物86棟 工作物7構

2 伝統的建造物の特徴

泊小路、中浦小路、月名小路、美保小路の4つの集落から成り、本通りと呼ばれる中心街路とこれに直交する谷筋に面して町家や旅館建築が建ち並んでいます。

敷地は通りに沿って細長い短冊形を呈しています。町家の主屋は、切妻造平入でいぶし瓦の棧瓦葺、2階建てが基本です。(※1)

1階は、通り土間に沿って2から4室の居室を並べる1列型が多く、1室目には美保神社の祭礼の影響で、えびす神を祀る神棚を設けています。

(※2)

正面外観は、下屋や庇を付し、軒や下屋の出桁は装飾的な意匠を施した腕木で支えています。(※3)

大型の旅館建築も、切妻造平入棧瓦葺の2階建てが基本で、座敷は数寄屋風の意匠(※4)となっています。工作物として、「石敷舗装(青石畳通り)」や、江戸時代に建てられた「弁天波止場常夜燈」、「おかげの井戸」、かつて船をつなぎとめていた「係留柱」(※5)などが残っています。



(※1)切妻造・平入・棧瓦葺の屋根



(※2)1階通り土間と居室部



(※3)装飾のある腕木



(※4)数寄屋風の意匠



(※5)石敷舗装(青石畳通り)



(※5)弁天波止場常夜燈



(※5)おかげの井戸



(※5)係留柱

【参考】制度

1 伝統的建造物群保存地区制度

主として伝統的建造物群の外観上に認められる位置・規模・形態、意匠、色彩等の特性を、その周囲の環境と併せて保存することを目的とした制度。

2 重要伝統的建造物群保存地区

市町村から文科大臣に選定の申し出を行い、文化審議会で諮問・答申される。

伝統的建造物群保存地区のうち、特に価値が高いと判断されるものが選定される。